

今月のことば

できるだけの
ことを
させて
いただく

（小池秀章『現代のことばで味わう 日めくり歎異抄』より）

「困っている人を見たら、助けたいと思う」

この心は、嘘ではないと思います。しかし、困っている人を助けた時、お礼を言ってもらえなかったら、どうでしょう。「せっかく助けてあげたのに」と、少し腹が立つことも、あるのではないのでしょうか。

私たちが人の為に何かをした時、どうしても「〇〇をしてあげた」ということへの、とらわれから離れられません。ですから、「お礼を言ってほしい」とか、「いいことをしたら気持ちがいい」などといった、見返りを期待してしまうのです。自己中心の心から離れない私たちの中から、純粹に「人を助けたい」という心は、出てこないのです。

ところが、仏さま（真実に目覚めた方）は、そうではないのです。仏さまの救いは、自由自在であり、しかも、人々を救いながらも、救っているというとらわれがないのです。

私たちも、仏さまのように、自由自在に、そして、とらわれなく、人を助けることが出来ればいいのですが、とても出来ません。

しかし、だからと言って、何もしないわけではありません。仏さまの教えを聞かせていただく中で、「助けてあげている」ではなく、「出来る限りのことを、させていただく」という生き方が開けてくるのです。

台掌

龍谷大学非常勤講師

こいけ ひであき
小池秀章